



議員が、市民の皆さんの生活にかかわる身近な市政の課題に対して質問を行います。その中から質問および答弁の要旨を1件、その他の主な質問項目を3件掲載しています。

# 市政を問う！

## 一般質問Q&A

### 行財政



新型コロナウイルス  
5類移行後の施策  
白川 敏明



Q 今後も様々な対策を講じるべきでは。

A 観光入込客数は、過去最高となり、こども関連施策も、東北初の日本子育て支援大賞として評価されるように充実を進め、移住者数は子育て世代を中心に過去最多となった。

また、7万人以上が、市の公式LINEを登録し、高齢者が高齢者のデジタル活用をサポートするなどデジタル化も着実に浸透してきている。

総合計画でポストコロナ時代を見据えた社会づくりをまちづくり全体を網羅する重要な視点として各種施策に盛り込み、市民生活や地域経済の上向きの流れの定着・強化を図っていく。

今後コロナ禍で積み上げてきた知見を継承し、市の進めるあらゆる施策で先を見据え、格段の前進に繋がるよう取り組む。

### その他の主な質問

- 独居高齢者への支援
- デスティネーションキャンペーン開催での取り組み
- ももりんシルバースポーツの見直し

### 環境・ごみ



メガソーラーの  
規制・制限  
石原 洋三郎



Q 条例などで規制したり、届出制を設けたり、環境基本計画などで開発の制限を明記するべきでは。

A 設置にあたっては、市太陽光ガイドラインによる届出制としており、発電事業者が提出する事業計画書により、設置予定場所や発電規模などの概要を把握している。

山地で計画される景観の悪化や災害発生のおそれのあるメガソーラーに対しては、適法に事業が進む前段階で事業者に中止を求めていく。

電力のエネルギー自給率の向上には、省エネ・省資源化と併せて再生可能エネルギーの導入が必要であるため、令和7年度中に改定予定の次期環境基本計画で、ノーモアメガソーラー宣言の趣旨を踏まえ、本市の特性に応じてゼロカーボンに資する取り組みの検討を進める。

### その他の主な質問

- 荒川の水质日本一を守り抜く覚悟
- 市内の空き家件数
- 管理不全空き家への市民の対応



松川町水原笹平に建設  
計画のある産業廃棄物  
最終処分場  
村山 国子



Q 地域住民の建設を望まない声に寄り添うべきでは。

A 地域住民の安全安心や豊かな自然や景観を守り、次の世代につないでいくことに重点を置いて環境行政に取り組んでいる。産業廃棄物処理施設の設置計画にあたっては、市独自に産業廃棄物処理指導要綱を設け、各種同意書などにより地域住民の意向などの確認を行い、住民との調整が整っていない部分は引き続き、十分な説明と信頼関係の構築を指導するなど、地域住民の声に寄り添った対応に努めている。

なお、虚偽の記載などがあれば、事業計画書の返戻を含め、厳正に対処する。

### その他の主な質問

- 地域交通くるくるバスへの支援
- 生活保護の一時扶助での相見積を求める根拠
- 市営住宅の廃止による移転の広報



先達山  
太陽光発電事業者の  
市民への説明会  
佐原 真紀



Q 多数の市民が事業者からの説明を求めているが、改めて説明会の開催が必要では。

A 事業者からの定期報告などの機会に説明会の開催についても働きかけていく。市ホームページに先達山太陽光発電施設に関する特設ページを開設、事業の概要を掲載し、広く市民などへの情報提供を開始したほか、工事の進捗状況を知らせるよう事業者との調整を進めている。

加えて、6月2日の泥水が流出した件について、事業者に対して厳重注意を行い、台風19号のような雨にも問題が生じないよう対策の強化を求めた。今後、市ホームページで逐次新しい情報を提供していく。

### その他の主な質問

- 偕楽亭の歴史と文化の継承
- スペシャルサポートルームの取り組み
- 不登校生徒軽減への見解
- キエーロの推進とPR

※「キエーロ」はキエーロ葉山の登録商品です。



### 福祉・健康



病院都合による  
個室への入院  
佐々木 優



Q 大部屋への入院を希望しても空きがなく個室となるなどの場合、同意しなければ差額ベッド代を支払わなくてはよとの通知がでているが、市民の認識についての見解は。

A 厚生労働省発出の通知によると同意書による同意の確認を行っていない場合や治療上必要な場合、特別療養環境室以外が満床である場合には、特別な料金を求めているならないとされている。

いずれの場合も、医療機関から患者側に丁寧な説明が行われているものと認識している。

**その他の主な質問**  
○資格確認書の送付とその周知  
○駅前再開発計画への見解  
○街なかでの座る場所、憩いの場所の必要性



**介護職員  
必要数の確保**  
三浦 由美子



**Q** 市内全ての事業所への実態調査を行い、市の責務と課題を明らかにすべきでは。

**A** 昨年度、市内全事業所に対してアンケート調査を実施し、欠員補充ができない、休暇・休憩が取れないといった人材不足の状況や人材を募集しても応募者がいない、職員の高齢化といった運営上の課題や市への要望などを回答いただき、人材不足が深刻な課題であると認識したところである。

アンケート結果を今後の介護人材確保対策推進パッケージなどに生かし、持続可能な介護保険制度の維持に役立ていく。

**その他の主な質問**

○障がい者のふくしまシティーハーフマラソン参加状況と対処  
○ももりんシルバーバスポート見直し  
○市全体のまちづくり

**まちづくり**



**福島駅前再開発における  
大屋根広場の工事費**  
斎藤 正臣



**Q** 民間エリアとフレキシブルホールの入り口にあたる大屋根広場の工事費が、公共床取得額に算入された経緯は。

**A** 従来の計画においても、以前より市民の要望の強い全天候型のイベント広場整備を検討したが、施設計画上の制約などで断念した経緯があった。

今回の見直し検討の過程では、タウンミーティングなどで、改めて広場整備の要望が非常に強いことを考慮し、ホールなどのバランスの中で大屋根広場整備の方針として示した。

この広場は、日常の憩いの空間というだけでなく、ホールや駅前通りと一体でイベント利用される空間にもなるものであり、まちなか広場と同様、市施設として運営管理することが適切と考えている。

**その他の主な質問**

○再開発事業の今後の進め方  
○再開発事業の財政への影響  
○フレキシブルホールに誘致する想定  
の会議



**全国規模の会議開催**  
菅原 美智子



**Q** 開催希望があったが開催に至らなかった事例は。

**A** 参加予定人数6,000名規模の医療系の学術大会があり、当初、主催者は、複数の施設を活用し開催することを想定していたが、1,000名から1,500名程度が一堂に会するメイン会場を確保できず開催を断念され、最終的に郡山市で開催することが決定された。他にも

3,000名程度の医療系の研修会、放射線関連の国際会議、中核市市長会の中核市サミットは、本市での開催を見送っている。

こうした機会の逸失は、利益を逸失していることと同様であり、再開発事業の早期の完了が求められる状況にあると考えている。

**その他の主な質問**

○フレキシブルホールでの全国規模の会議開催  
○介護認定調査期間の短縮のための対策  
○ごみ減量化のためのシンポジウムやイベントの開催による意識向上



**福島駅前交流集客施設の  
中期財政収支への影響**  
尾形 武



**Q** 今後中期財政収支にどのような影響が考えられるか。

**A** 今回の見直し案では、事業年度を2年後ろ倒しして、令和8年度から10年度の3カ年になり、施設取得費は最大で80億円増額の270億円と試算している。

この見直しの影響に限定すれば、令和8年度以降の財源不足額が大きくなることが想定されるが、健全な財政運営に配慮し、人や投資を呼び込むまちづくりに資する攻めの施策を展開することが、税金を増やし、持続可能な財政運営につながるかと考える。

本事業は、街なか再生の起爆剤として、都市力強化の中核をなすものであり、実質負担をできる限り抑えるよう財源確保の工夫に努め、事業を推進していく。

**その他の主な質問**

○農林業振興基金の拠出金の利活用  
○田んぼダムの取り組み計画  
○デジタルクーポン発行、今後の高齢者へのデジタル化推進対策



**福島駅前再開発への  
市民の期待**  
石山 波恵



**Q** 今回一定の方向が示されたが市民の期待をどのように実現していくのか。

**A** 当初計画以上に市民の意見を聞く機会を設け、公共エリアにはまちなかりビング、大屋根広場、屋上広場、民間エリアに横丁型フードホールなど、市民の憩いと交流の場を大幅に充実させた。今後も、説明と対話の機会を設けて、設計や運営に市民意見を反映していきたい。

一方、アパレルなどの物販商業は規模を縮小、ホテル誘致も見送らざるを得なかった。

これらの投資を促進するには、再開発事業を核として、多くの人を呼び込み人流を回復して、商業やホテルなどの立地意欲を高めていく。

街なか再生の4つの要素である、人が住む、人が働き学ぶ、人が集まる、人が流れる環境づくりを進め、都市力を強化し、市民の期待に応えることができる街なかをつくっていく。

**その他の主な質問**

○イベント時の地元商店街との連携  
○福島駅東西周辺への賑わいを生かす取り組み  
○ふくしまシティーハーフマラソンでの交通規制等の周知方法



医療関係団体の  
コンベンション誘致  
佐藤 勢



**Q** 福島医大保健科学部や周辺施設をサテライトで結ぶことができれば2,000人〜3,000人規模のコンベンション誘致が可能では。

**A** 新たなコンベンションホールが開業した場合、公共棟全体で2,000人規模の会議開催が可能となり、当該施設をメイン会場として県立医大の駅前キャンパスやコラッセふくしまなどをサテライト会場とすることで、福島駅から徒歩圏内で3,000人規模の開催も十分可能である。

施設完成後は、コンベンションの内容に応じてその都度、施設管理者と調整を行い誘致につなげていきたい。

**その他の主な質問**

- 介護職員不足への定員増に向けた課題と対策
- マイナ保険証利用促進の課題と対策
- 中心市街地小学校再編のプロセス



再開発事業における  
子どもたちのための  
施設整備  
高木 直人



**Q** 再開発事業について、子どもたちが集い安全に過ごせる場所、子どもたちが表現できる場所を求める意見が出されているが見解は。

**A** フレキシブルホールでは、子どもたちが主体となる学習成果の発表会や作品展示会、屋内スポーツのほか、子どもたち向けの各種興行イベントが可能となるほか、屋上広場やまちなかりビングは、家族や友人との団らん、イベント利用、学生の学習場所など、日常利用が可能となり、多様なつながりを生み出す場となることを想定している。

なお、大型の遊具などは、スペース的にも難しく、駅周辺施設のこむこむ館との二重投資になると思われる。

現在、こむこむ館では、デジタルコンテンツ導入による空間演出など機能強化を図っており、今後、遊び場機能のリニューアル、子どもライブラリーと喫茶の融合など、より子どもたちと子育て世代に魅力ある施設にし、フレキシブルホールと連携させ魅力ある駅前をつくっていく。

**その他の主な質問**

- 高齢者の孤独死防止の取り組み
- インクルーシブ遊具の設置
- イトーヨーカドー福島店跡地利用の動向



もりりん  
シルバースポーツ  
事業の継続と拡充  
山田 裕



**Q** 現行の事業の継続とタクシー利用補助の創設の両方を実施、拡充すべきでは。

**A** 今回の見直しは、市内全域の高齢者が公共交通などによって足の確保ができる利用しやすいものにするともに、持続可能で、公平・公正な制度にするため、タクシーを追加し、持続可能性と公平性

の観点から、どの利用方法にも等しく上限額を設定するのが妥当と考え、たたき台として2万円の上限額を示した。

タクシー利用を新たに加えるにあたっては、公共交通の経営自体が厳しい状況から、バス・鉄道の利用促進も図りながらタクシーも活用していく仕組みとするため、これまで通りバス・飯坂線を利用する方は、上限2万円まで、タクシーを利用する方は、バス・飯坂線と併用で1万円ずつとし、公共交通全体の持続性にも配慮し、タクシー利用にはマイナナンバーカードを活用し不正利用にも一定の歯止めをかけていく。

こうした考えを軸に、市内全域の高齢者に利用しやすく、持続可能で、公平・公正な制度を構築する考えであり、現行制度を維持したままタクシー利用を追加することは考えていない。

**その他の主な質問**

- 飯坂温泉公衆浴場の利用料金改定
- 栗本堰水系の水害防止施策
- 鳥谷野堰橋の拡幅の着手予定

各議員の氏名の下にある二次元バーコードから市議会 HP の録画映像をご覧ください。(公開期間は8月末日まで) 9月以降は会議録をご覧ください。

会議録はこちらから→



**複合市民施設に関する調査特別委員会**

6月14日の複合市民施設に関する調査特別委員会において、本会議にて付託された「福島市市民センター条例制定の件」「福島市役所本庁舎駐車場条例制定の件」の2件を審査し、最終日の本会議で可決しました。



市民センターイメージパース

**現地調査を実施**

(経済民生常任委員会)

4月18日、所管事務調査の一環として現地調査を行いました。

市内3箇所の農園等を訪れ、キュウリやトマトなどの野菜、いちごやもも、梨、ぶどうなどの果樹の生産状況を確認しました。



**意見交換会を実施**

(文教福祉常任委員会)

4月19日、「認知症があっても住みやすいまちづくりについて」をテーマとして、公益社団法人認知症の人と家族の会の皆さんと意見交換会を行いました。2部制で早期発見の取り組みと家族に必要な支援のテーマにより、意見交換を実施しました。

